

令和4年度 学校法人増田学園 事業活動報告書

「令和4年4月1日～令和5年3月31日」

I 法人の概要

(1) 基本情報

- ①法人の名称 学校法人増田学園
②法人本部の所在地 〒260-0006 千葉県千葉市中央区道場北1-17-6
千葉聖心高等学校内
電話番号 : 043-225-4151
FAX番号 : 043-227-7278
HPアドレス : <http://www.chibaseishin-h.ed.jp/>

(2) 建学の精神

- 聖心 清らかな心で他者を思いやること
○努力 目標の実現に向け何事にも真剣に取り組むこと
○奉仕 自ら進んで社会に貢献すること

【学祖の意志（信念）】

私の学校の校訓の「努力、奉仕の心に徹せよ」は父の教訓を基として生まれたのであるが、道徳、人間形成の道においては昔も今日も変わりのある筈はなく、むしろ今の社会においてこそ、道徳が必要であると確信している。それ故に、私は私なりに時代に即応した道徳、人間形成の教育を説くことに私の生涯を捧げていきたいと、深く心に決めている。

—増田うめ著「吾が愛の教育9Pより」—

(3) 沿革

- | | | |
|-------|-----|--|
| 昭和22年 | 4月 | 千葉洋裁学院創立（千葉市中央区椿森） |
| 昭和32年 | 1月 | 学校法人増田学園認可 理事長・学園長に増田うめ就任 |
| 昭和39年 | 11月 | 千葉女子専門学園と改称 |
| 昭和42年 | 4月 | 校舎新築移転（千葉市中央区道場北） |
| 昭和44年 | 4月 | 保育科開設（保母養成課程） |
| 昭和45年 | 4月 | 保育科に幼稚園教員養成課程を開設 |
| 昭和48年 | 4月 | 千葉女子専門学園附属幼稚園設置認可（千葉市美浜区高洲） |
| 昭和51年 | 4月 | 千葉女子専門学校及び千葉女子専門学校附属幼稚園と改称 |
| 昭和54年 | 4月 | 千葉聖心高等学校設置認可（全日制課程普通科） |
| 昭和62年 | 4月 | 東館校舎増築 |
| 平成20年 | 3月 | 校舎移転（現在地） |
| 平成20年 | 4月 | 2代目学校法人増田学園長に増田良子就任 |
| 平成20年 | 11月 | 増田学園校舎改修落成記念式典挙行 |
| 平成24年 | 4月 | 千葉女子専門学校附属ひじり保育園開園 |
| 平成27年 | 3月 | 千葉女子専門学校附属聖幼稚園廃園 |
| 平成27年 | 4月 | 幼保連携型認定こども園
千葉女子専門学校附属聖こども園設置認可 |
| 平成29年 | 4月 | 千葉女子専門学校 文部科学大臣から「職業実践専門課程」の認定 |
| 平成30年 | 1月 | 千葉市保健福祉局地域福祉課監査指導室による平成29年度社会福祉法人等指導監査（1月25日実施、対象：千葉女子専門学校附属聖こども園） |
| 平成31年 | 1月 | 同年1月29日付けで文部科学大臣から「平成31年度以降の教員養成機関」としての指定を受ける。 |
| 平成31年 | 3月 | 同年3月28日付けで千葉県知事より「保育士養成課程に係る学 |

- 則変更」について、31年度の学生から適用通知を受ける。
- 平成31年 3月 同年3月29日、千葉女子専門学校附属聖こども園園用地東側に隣接する砂川歯科医院の閉院による跡地（千葉市美浜区高洲2丁目24番4）327.49㎡を学校用地（千葉女子専門学校実習用地）として取得登記する。（購入価格5,400万円）
- 平成31年 4月 同年4月8日付けで文部科学大臣から「指定教員養成機関の教育課程の変更」について、平成30年度及び平成31年度とも認定となる。
- 令和 元年 9月 同年9月20日付けで千葉県知事から高等教育の修学支援新制度の対象機関として千葉女子専門学校が認定される。
- 令和 元年10月 同年10月1日から千葉女子専門学校附属聖こども園において「幼児教育・保育の無償化」を開始。
- 令和 2年 4月 同年4月1日から千葉女子専門学校において「高等教育の無償化」を開始。
- 令和 2年 8月 同年8月19日、千葉県総務部学事課による実地指導監査を受ける。実地指導監査対象校は千葉女子専門学校、千葉聖心高等学校、千葉女子専門学校附属聖こども園。
- 令和 2年 9月 同年9月1日、千葉女子専門学校の授業方法等の改善等を目的として、従来の対面方式での授業方法に加え、オンライン方式でも授業ができるように「iPad」を導入。
- 令和 3年 5月 同年5月6日、千葉女子専門学校学校用地南側に隣接する山口邸宅地（千葉市中央区道場北258番4）取壊し後の跡地158.00㎡を学生の通学路としての利便性や将来の有効活用のため学校用地として取得登記する。（取得購入価格2,000万円）
- 令和 3年11月 同年11月4日、周辺民間住宅（アパート）と千葉女子専門学校旧学生院内寮北側の境界が確定したことにより、その間にある国有地（千葉市中央区院内2丁目180番12）30.54㎡の払下げを受け学園管理用地として取得登記する。（取得購入価格33万円）
- 令和 3年12月 令和3年12月13日、令和3年5月6日に取得登記した山口邸宅地と千葉女子専門学校学校用地南側の間にある国有地（千葉市中央区道場北258番14、同番地15）48.58㎡の払下げを受け学校用地として取得登記する。（取得購入価格131万円）

（4）設置する学校名及び所在地

学 校 名	所 在 地
千葉女子専門学校	千葉市中央区道場北1-21-21
千葉聖心高等学校	千葉市中央区道場北1-17-6
幼保連携型認定こども園 千葉女子専門学校附属聖こども園	千葉市美浜区高洲2-3-24

（5）施設等の状況

①土地所有面積	29,065.19㎡
内訳：	
本部（高校）	（21,425.77㎡）
専門学校	（4,762.40㎡）
聖こども園	（2,877.02㎡）

②建物面積 11,294.528 m²

内訳： 本部（高校）（6,441.62 m²）

専門学校（3,085.758 m²）

聖こども園（1,767.15 m²）

（6）学生生徒数等（令和5年3月31日現在）

名称	学科	募集定員		令和4年4月1日現在		令和5年3月31日現在			
				人数	計	人数	計		
千葉女子専門学校	保育科 (女子)	1年	100	75(13)	147(21)	65(11)	137(19)		
		2年	100	72(8)		72(8)			
千葉聖心高等学校	全日制 普通科 (女子)	1年	200	148	483	145	472		
		2年	200	189		183			
		3年	200	146		144			
千葉女子専門学校 附属聖こども園	保育部	0歳	6	30	4	28	4	168	
		1歳	9		9		9		
		2歳	15		15		15		
	幼稚舎	3歳	1号	22	42	14	48	16	47
			2号	20		34		31	
		4歳	1号	22	42	20	47	19	47
			2号	20		27		28	
		5歳	1号	22	42	12	45	12	46
2号	20		33	34					

※ (1) こども園乳幼児の区分 (2) 高校の定数 (3) 専門学校
 1号認定児（保育を必要としない3歳～5歳児） 180名（推薦・併願等） () は訓練生
 2号認定児（保育を必要とする3歳～5歳児） 20名（一般）
 3号認定児（保育を必要とする0歳～2歳児） 200名（合計）

※ 令和4年度 全体の学生生徒等人数 【 1)当初総数 798名 2)年度末総数 777名 差異 21名減 】

（7）歴代理事長・学園長

【理事長】 初代理事長（財団法人含む） 増田 うめ（昭和26年～昭和34年）
 第2代理事長 増田 清（昭和35年～昭和59年）
 第3代理事長 増田 浩（昭和60年～平成16年）
 第4代理事長 増田 和人（平成17年～ ）
【学園長】 初代学園長 増田 うめ（昭和26年～平成8年）
 第2代学園長 増田 良子（平成20年～ ）

（8）法人役員等の状況（令和5年3月31日現在）

① 理事（寄附行為規定6名～8名）

No.	氏名	就任年月日	態様	備考
1	増田 和人	H17.4.1	常	理事長
2	山岸 信和	H28.4.1	非	副理事長
3	増田 良子	H20.4.1	常	法人学園長（現千葉女子専門学校長）
4	星野 和彦	H12.7.18	非	元千葉聖心高等学校長、元県立高等学校長
5	前嶋 薫	H25.4.1	非	元株式会社監査役、元株式会社取締役社長、元銀行役員
6	足立 叡	H29.7.24	非	元大学長・元大学教授、元千葉女子専門学校非常勤講師
7	三浦 勤治	H30.4.1	常	現千葉聖心高等学校長、元県立高等学校長

② 監事（寄附行為規定2名）

No.	氏名	就任年月日	態様	備考
1	渋谷 正	H16.4.1	非	元千葉聖心高等学校長、元県立高等学校長
2	藍原 誠壽	H26.4.1	非	元大学AO入試センター教授、元県立高等学校長

※「態様」欄は、常勤役員等の場合は「常」、非常勤役員等の場合は「非」と表示。

③ 評議員（寄附行為規定13名～17名）

No.	氏名	就任年月日	備考
1	増田 良子	H20.4.1	寄附行為第24条第1号
2	浮貝 公雄	R1.10.16	寄附行為第24条第2号
3	日暮さつき	H25.4.1	寄附行為第24条第2号
4	中野 武彦	R2.4.1	寄附行為第24条第2号
5	中田啓一郎	R4.4.1	寄附行為第24条第2号
6	千葉 良夫	H26.4.1	寄附行為第24条第2号
7	増淵恵理子	H27.4.1	寄附行為第24条第3号
8	齊藤 松子	R2.4.1	寄附行為第24条第3号
9	星野 和彦	H12.7.18	寄附行為第24条第4号
10	三浦 勤治	H30.4.1	寄附行為第24条第4号
11	龍田知恵子	H31.4.1	寄附行為第24条第5号
12	佐竹 恒輝	H31.4.1	寄附行為第24条第5号
13	中村 仲子	H24.6.15	寄附行為第24条第6号
14	山岸 信和	H24.1.10	寄附行為第24条第6号
15	増田 和人	H17.1.25	寄附行為第24条第6号

(9) 教職員数（令和5年3月31日現在）

区分	本部		千葉女子専門学校		千葉聖心高等学校		千葉女子専門学校 附属聖こども園		合計		
	4/1	3/31	4/1	3/31	4/1	3/31	4/1	3/31	4/1	3/31	
教員	常勤	0	0	14	14	37(1)	37(1)	28	28	79(1)	79(1)
	非常勤	0	0	23(1)	22(1)	12	12	5	6	40(1)	40(1)
職員	常勤	6(4)	5(3)	3	3	0	0	2	2	11(4)	10(3)
	非常勤	2(2)	2(1)	3	2	0	0	3	3	8(2)	7(1)
合計	8(6)	7(4)	43(1)	41(1)	49(1)	49(1)	38	39	138(8)	136(6)	

注記 ・常勤職員（専任職員の勤務時間と同等の勤務する者を含む）、非常勤職員（常勤職員以外の者）・（ ）内は兼務職員の内数
・年間での異動者数：①退職：3名（常勤事務1名、パート事務1名、非常勤講師1名）②採用：1名（パート保育士1名）

II 令和4年度 事業活動報告書の概要

—はじめに—

昭和22年創立以来、70有余年が立つ。「聖心・努力・奉仕」を建学の精神とし、一貫して女性の自立、活躍、幸せ、そして人間形成をめざした教育を推進してきた。その間には、時代の流れ、社会の変化に翻弄され、また、後押しされながら今日に至っている。

現在、学園では2校1園を運営しているが、それぞれに職員の真摯な取り組みと、保護者や子どもたちの信頼、地域の人々の支えなど、すべてのステークホルダーに支えられながら発展を遂げてきたと自負している。一方で、今後の学園を中長期的に捉えると、少子高齢社会にあって学生生徒等の確保の問題や、教育課程の改訂等に伴う教育の質の向上への取り組み、そして校舎や体育館等施設設備の老朽化対策、あるいは職員の働き方を含む学校行事や部活動の在り方など、多くの問題や課題等が山積している状況にあると捉えており、当学園のこれまでの歴史や経営方針をふまえながら、1年1年をしっかりと取り組んでいかなければならないと考えている。

令和4年度の事業活動の展開については、そうした中で、教育機関としての役割を果たすべく、専門学校では、笑顔あふれる保育者の育成と就職支援を、高校では基礎基本を重視した学び直しと希望の持てる進路開拓を、こども園では遊びをとおした人間形成と

子育て支援を行い、それぞれの教育・保育の展開を留まることなく推進してきた。

2019年12月以降から発生している新型コロナウイルスの感染拡大は3年目を迎え新型のオミクロン株へと移行して、今年度もコロナ禍での学校運営となっている。特に前半は学生生徒等、教職員からも濃厚接触者、陽性者が出て、専門学校では一部授業の休講、高校とこども園では一部学級閉鎖となってしまったが、それぞれに応じた適切な対応により、クラスターの発生や教育活動に大きく支障がでるようなことはありませんでした。

一方で、10月以降から後半にかけては新型のオミクロン株が流行し、年明けには第8波としてピークに達し現在に至っている。高齢者の死者数が増加しているものの、このオミクロン株については臨床的な重症度は見られないとして、イベントの開催や旅行などが緩和され、現在では多くの外国人旅行客も押し寄せている状況となっている。

高校2年生の沖縄への就学旅行も2月に実施することができ、よき思い出づくりができるようになってきた。学校も少しずつ日常が戻ってきている。しかしながら、未だに新型コロナウイルスの感染が終息したわけではない。連休後の第9波が懸念されている現在、引き続き、感染予防対策に万全を期しながら教育活動・学校運営に取り組んでいかなければならないと思いつているところである。

以下、学園としての今後の課題等を踏まえながら、令和4年度の2校1園の取り組みについて、その事業実施概要をまとめたものである。

(1) 千葉女子専門学校

学祖の意志を継承し、戦後の復興期から女性の自立・幸せ及び人間形成をめざした教育を実践してきた。洋裁をはじめとする服飾技術と心の教育を柱として始まり70有余年が経つ。その間、時代の要請とともに専門学校は、幼児教育・保育の分野へと転換を図り、昭和44年4月に保育科を開設し保母養成課程（現保育士養成課程）を、昭和45年には幼稚園教諭養成課程をそれぞれ設置し、魅力あふれる保育者の養成をめざしてはや50年有余が経過する。卒業生もおよそ6,700名を超え、幼児教育・保育等の中枢で活躍している。一方、昭和48年4月には専門学校附属の聖幼稚園、平成20年4月には同ひじり保育園、平成27年4月には二つの園を統合して、千葉市内では最初の幼保連携型認定こども園千葉女子専門学校附属聖こども園を開園し、幼児教育・保育の実践ができるように環境を整えて今日に至っている。

【教育目標】

- 本学園の建学の精神である「聖心・努力・奉仕」に基づき、豊かな感性と表現力をもった保育者を育成する。
- 幼稚園教諭・保育士養成校としての長年の伝統を生かし、乳幼児教育をライフワークとし日々研鑽・成長する保育者を育成する。
- 教育にあたっては、個々の学生の資質や個性を十分に把握し、個々に応じた綿密な教育の実現を目標とする。

【質の向上・充実】

- 教育課程の見直しによるカリキュラムの定着に注力してきた。
- 学生には、授業に対する意見等を聞くなどしながら授業展開してきた。
- 普段実施している授業を教員相互に参観し合う機会（公開授業）を持つことで、あらためて自身の授業運営について検討し、授業改善や指導力の向上を図ることを目的として公開授業を開催した。「令和4年11月14日（月）～12月2日（金）」
- 教室内の授業態度も落ち着いており、その効果が現れている。引き続き授業改善に努めながら、また、教員自身の研究と自己研鑽をとおして指導力の向上を図り、質の高い教育の提供に努めていきたい。

【教育環境の整備充実】

- 昨年度隣接地（158.14㎡）を取得し、そこに含まれる公有地（48㎡）の払下げが今年度完了した。合計で約63坪の敷地面積となるが、避難路を含めた福祉・保育

に資する多目的施設を建築した。有効活用について検討中である。

- 校舎内外の安全・安心かつ清潔な環境の継続的維持に努めた。
- 図書整備の充実（学生用図書のほか、iPad や教職員研修用図書の継続的な整備）
- 補修・修理箇所を早期対応。

【広報活動の充実強化】

- 高校訪問等の実施
入学者の獲得は厳しい状況にあるが、県内の高等学校を中心に、訪問や進路ガイダンス等に積極的に参加し、本学の良さ、魅力をアピールしながら広報活動の充実強化を図ってきた。また、模擬授業をとおして本学での指導内容の理解と興味を深めてもらう工夫を行った。
- オープンキャンパスの一層の工夫と充実。
年10回程度実施しているが、体験講座（工作遊び、手遊び、音楽表現など）や、学校概要（教育課程、実習、就職など）、入試要項の説明や校内見学などを丁寧に実施。
- 学校案内、パンフレット等の工夫や広告媒体の活用を行った。

【現場に直結した実習指導の充実】

- 本年度も千葉女子専門学校附属聖こども園のほか、コロナ禍での変更を含め、他の幼稚園・保育園、障害者施設等のご協力をいただきながら教育実習及び保育実習並びに施設実習を実施した。
- 1年生：5月～6月（観察実習）1月～2月（教育実習Ⅰ）2月（保育実習Ⅰ）
2年生：5月～6月（教育実習Ⅱ）8月一杯（施設実習）9月～10月（保育実習Ⅱ）

【就職支援活動】

- クラス担任制による学生と教師がコミュニケーション活動の充実を図っている。
何でも相談できる環境づくり、また、就職担当職員とともにきめ細かな就職指導やサポートを組みながらその支援活動を実施してきた。これは本校の特徴であり、その特徴や強みを生かしながら今後もその支援活動の充実を図ってきた。
- 面接や履歴書の作成指導を実施した。
就職の決め手となる学生の良い面を引き出すための「面接指導」であり、また、分かりやすく好感の持てる履歴書の作成指導を行った。
- 「就職活動体験報告会」を実施し、就職の決まった2年生が、自身の活動経験をもとに1年生にアドバイスをするなど、就職活動の参考となるようにしている。
- 「就職説明会」を2回実施。
千葉市民間保育協議会および「近未来保育研究所」と連携した就職説明会をそれぞれ開催した。県内の幼稚園・保育園等に参加していただいて、経営方針や園の特徴、職場の環境や労働条件等について、具体的に知ることができた。
- 「公務員試験対策講座」の実施。
公立の幼稚園・保育所等への就職に向けて、「公務員試験対策講座」を実施した。一般教養、専門科目、小論文の指導等、また、模擬試験を実施して希望が遂げられるように支援している。

【学校行事】

- 「入学式」については、4月4日（月）10：00から大ホールにおいて入学生（74名）のみを対象として挙行了。外部の来賓、在校生の出席を取りやめ、保護者のみとして人数制限を行いながら実施した。
- 「ファーストステップ研修」の実施「4月6日（水）」。
実施内容は、今後の学校生活における心構えや保育に関連した教師の講話、カリキュラムの概要、ペープサートやホバークラフト、手話、簡単な演劇、音楽、創作ダンスの発表など、オリエンテーション的な内容を含めたものである。
- 「七夕まつり」6月30日（木）に実施。近隣の幼稚園児や地域の方々を招いて行っていたが、コロナ禍を考慮して招待は取り止めた。

笹竹に短冊などの装飾をし玄関や大ホールに置き、また、歌や手遊び、パネルシアター、ダンスや盆踊りなど、七夕にちなんだ表現活動をとおして伝統行事を楽しんだ。

- 「学園祭（りんどう祭）」11月5日（土）に実施。
一般公開は中止とし、半日校内発表として実施した。発表内容は、ディズニーのアーエル/ラプンツェル/美女と野獣、白雪姫、てぶくろ/おむすびころりん、おかあさんといっしょ（バナナくんたいそう）など。
- 「卒業式」3月15日（月）10：00から大ホールにて挙行。
72名が卒業し、ほとんどが保育者として就職した。詳細は下表のとおりで、それぞれの職場で活躍している。

別表（1） 卒業生の進路状況 （令和5年3月31日現在）

種別		人数	割合	専門職希望割合	専門職就職率
専門職	保育園（所）	48名	67.0%	94.4%	100%
	こども園	8名	11.0%		
	幼稚園	7名	9.7%		
	児童養護施設	3名	4.2%		
	障害者支援施設	2名	2.7%		
	生活介護施設	0名	0.0%		
専門外		2名	2.7%	自営、アパレル系	
その他		2名	2.7%	家事専念等	
合計		72名	94.4%		

※保育園への就職が半数を占める中で、公立保育所への就職も3名（八街市、富里市、東金市）が果たしている。幼稚園、こども園、施設関係への就職者は昨年並みとなっている。

（2）区市町村別就職者数（令和4年度卒業生） 令和5年3月31日現在

区市町村名	保育園・幼稚園・こども園・各種施設への就職者																							他の就職	その他	合計											
	県内														県外																						
	市川市	船橋市	習志野市	八千代市	松戸市	柏市	流山市	四街道市	千葉市	市原市	印西市	佐倉市	成田市	富里市	八街市	茂原市	東金市	旭市	君津市	いすみ市	大網白里市	木更津市	長生郡一宮町				東京都足立区	東京都目黒区	東京都江東区	国分寺市	神奈川県横浜市	埼玉県大宮市	水戸市	派遣先未定	アパレル系	自営	
2-A	1	7	1	1	1	1	1	7	3	2	1	2				1	1							2	1	1	1	1			1	1		36			
2-B	2	8		1	1	1	3	8	1			2	1	1	1	1						1		1			1			1		1		36			
合計	3	15	1	2	1	1	2	3	15	4	2	1	4	1	1	1	2	0	1	0	0	0	1	2	1	1	1		0	0	1	1	0	2	0	0	72

【高校・こども園との連携活動】

- 高校の「こども保育コース」を専攻している生徒への学習支援や実習指導。
- 調理実習授業の際の施設設備等の借用等についての連携強化を図っている。
- こども園については、学生の教育・保育の実習先の一つとして指導をお願いしている。
また、こどもたちには、学園祭の見学に来ていただきながら交流を深めているが、今年度も昨年度と同様に招待できていない。

【コロナの感染状況と対応について】

昨年度の学生および教職員の感染状況についての概略は以下のとおりである。

- ・ 4月～2月までの陽性者数43名（昨年度13名）で、1年・2年生とも各20名。
- ・ 特に5月から7月にかけて29名の感染者が発生している。
- ・ 実習先での感染者が2名発生したが、それ以外は殆どが家庭内感染者であった。
- ・ 専任教員、非常勤講師の先生方も陽性判定で休講を余儀なくされたが、1年生は、実習前に自宅待機期間を設けた上で、保育実習Ⅰに参加するようにした。2年生は、授業科目担当者と相談・調整し、再試験、追試験、補講・追指導等を行うようにした。

（2）千葉聖心高等学校

昭和45年代以降における我が国の義務教育修了者の高等学校進学率は、高度経済成長とともに平均70%台に伸びていた。都市部においては90%台に迫る勢いであり、当時の文部省は私立高校に40%の受入れを求めていたほどである。千葉県当局においても私学とのバランスを図りながら毎年公立高校の新設を推進していた時代であった。

このような背景にあって、当学園では、千葉女子専門学校の「家政高等課程」を廃止し、昭和54年4月に千葉聖心高等学校（全日制課程普通科）を立ち上げたのである。爾来、学祖の一貫した女子教育への情熱のもと、女性の自立と幸せ、道徳と人間形成をめざした教育実践を展開し現在に至っている。「進学コース」、「総合コース」とともに、平成19年から「こども保育コース」を設けて、千葉女子専門学校及び聖こども園との連携を図りながら保育者の養成にも寄与している。

【教育目標】

「聖心・努力・奉仕」の建学の精神を尊重し、ものの見方や考え方の基礎を身に付けることに重点をおいた教育を行うことによって、倫理観・人生観を備え持つて、世のため人のために尽くすことのできる魅力ある女性の育成をめざす。

- （1）心豊かな礼儀正しい自立した女性の育成
- （2）確かな学力を身につけた行動力のある女性の育成
- （3）学校・家庭・地域の連携による社会に貢献できる女性の育成

【学習指導の充実強化】

- 本校の生徒への指導の中心は「基礎基本の定着」であるため、分かりやすく丁寧な授業の組み立てと展開を進めている。授業のほかに、学び直しであるJITAN学習、個別指導などをおして基礎学力の底上げに注力してきた。また、ICT機器活用やアクティブラーニングを積極的かつ能動的に学べる授業の実践に取り組んできた。
- 昨年に引き続き、コロナ感染予防対策のために学級閉鎖や授業変更などを余儀なくされた教訓から、今年度も「スタディーサプリ」を用意し、急な状況下でも学習内容の指示や課題を出せる体制を整えた。
- 今年度も、長期休業期間を利用した集中講座の開催や各種検定試験への挑戦を促し、学力の向上に努めてきた。

【生徒指導の充実】

- 全体としては、落ち着いた学校生活を送っている生徒ばかりである。「ダメ」なものは「ダメ」と毅然とした態度で指導にあたってきた。また、周囲の人への配慮に欠けた言動がないように、SNSによる問題が発生しないようにと注意喚起等をし、情報モラル教育を推進している。

- いじめを見逃さない学校体制を強化してきた。
- 生徒理解に全職員で取り組めるように相談体制を強化している。

【進路指導の充実】

- 働くことの意味や楽しさを理解し、体験してもらうための進路ガイダンスやインターンシップ等の積極的な推進を図ってきた。
- 各学年における計画的な進路指導を実践するように心がけてきた。
- 保育とともに、看護系・医療系の進学希望者受験対策の強化を図ってきた。
- 大学や短大への進学指導については、夏期集中講座や個別指導を実施した。
- 就職活動についても、コロナの関係で困難な状況ではあったが、希望者のほとんどは就職を果たすことができた。

2022年度 総数144名

大学	短大	専門学校	千葉女子 専門学校	就職	その他
32	21	54	16	12	9

- ・進学率85%。
- ・千葉女子専門学校を除けば「大学・短大」と「専門学校」への進学人数はほぼ同数。
- ・学校斡旋の就職決定率は100%。

2022年度 コース別 進路実績

コース別	大学	短大	専門	就職	女専
こども保育	6	10	5	4	16
進学	18	7	17	2	0
総合	8	4	32	6	0

- ・保育コース以外から千葉女子専門学校への入学者は0人。
- ・進学コースでは大半が大学・短大へ進学。加えて、専門学校進学者の多くは看護医療系などの難関校へ進学。
- ・総合コースでは6割以上が専門学校へ進学。(受験方法：85%が総合型)

【特別活動の充実】

特別活動では、生徒の自主性を尊重しながら指導や支援に職員全員で取り組んでいる。

- 部活動は、生徒にとって仲間と苦楽を共に過ごしながらか、自分自身の心身を成長させることのできる時間・空間であり、重要な教育活動の一環である。令和3年度に比べると大会やコンテストが多く開催されるようになってはきたが、令和4年度もコロナの影響を受けながらの活動であるため十分な状況とは言えない。

- 各種大会の成績

①ソフトテニス部

- ・関東高等学校ソフトテニス大会千葉県予選会 団体戦ベスト16位
個人戦9位 関東大会出場
- ・千葉県高等学校新人体育大会ソフトテニス大会 団体戦ベスト16位
- ・千葉カップ(学年別大会) 1年生の部優勝2名 準優勝2名
2年生の部ベスト8位4名

②バトミントン部

- ・関東高等学校バトミントン大会千葉県予選 団体戦5位
- ・千葉県高等学校総合体育大会バトミントン競技大会 団体戦5位

- ・千葉県高等学校1・2年生バトミントン大会 個人戦シングルス5位

③吹奏楽部

- ・令和4年度千葉県吹奏楽コンクール B部門（小編成の部）銅賞

【主な学校行事への取り組み】

例年多くの行事を実施しているが、今回もコロナウイルス感染症拡大防止の観点から、中止や延期、規模縮小といった形で実施してきた。行事をとおした「体験や学び」は、有形無形に生徒の成長に寄与するものであり意義深いものがあるため可能な範囲で実施してきた。コロナ禍以前に実施していた行事のうち「GO、GOウォーキング」については令和4年度も未実施である。また、6月29日に予定していた「体育祭」についても、熱中症等が懸念されたことから急遽中止とした。

- 第44回入学式 4月7日（木）
- 校外学習・修学旅行 6月24日（金）1年生マザー牧場、2年生東京ディズニーシー、3年生6月23日～24日東京ディズニーリゾートでミニ修学旅行
- 文化祭（りんどう祭）9月24日（土）
- 球技大会 10月28日（金）
- 修学旅行 令和5年2月7日（火）～2月10日（金）3泊4日沖縄県
- 予選会 令和5年2月27日（月）
- 卒業式 令和5年3月1日（水）

【広報活動の取り組み】

入学者の獲得のための広報活動については、目標を設定して取り組んでいるが、少子化や年々変化する受験環境の中でなかなか厳しいものがある。昨年もそうであったように今回も併願者からの入学者数の伸び悩みで苦戦している。この学校で学んでみたい、通いたいと思ってもらえるような学校の魅力度を、より一層高めることができるように、原因分析しながら募集活動を展開していきたいと考えている。

- 体験入学 第1回7月23日（土）、第2回8月20日（土）
- 学校説明会 10月8日（土）～12月10日（土）の間8回実施
- 中学校教員対象説明会 9月9日（金）
- 塾対象学校説明 9月16日（金）
- 首都圏進学フェア（幕張メッセ：8月6日（土）・7日（日）、成田：8月21日（日））
- 広報媒体の活用 学校案内、HP、電車・バス・電柱広告他

【女専・こども園との連携】

- 千葉女子専門学校は系列校であり、卒業生の進学先として重要な位置づけにある。また、普段の学習活動における相互協力の関係にあり、これまで職員間の意思疎通と連携強化を図りながら推進してきた。
- こども園においては、「こども保育コース」の生徒が保育実習で指導を受けてきたところであり、欠かせない実習先である。次年度も年間計画の中で実施のための相互の調整を図りながら円滑に進めていきたい。

【その他学習環境整備等】

- 情報機器を活用した情報教育、並びに教科指導におけるICT活用や校務の情報化・効率化について、その充実強化を図る必要があることから、コンピュータやiPad、キーボード等の追加購入を行った。特に、家庭と学校の学びの継続を保障することを目的として生徒1人1台端末（iPad）の推進を図ることとし、現有台数220台を含め、本年度140台、次年度123台、計483台を3年計画で整備することとした。生徒への貸し出しについては、ルールを作成してその有効活用を図った。
- 昨年度は体育館の照明器具をLEDに交換したが、全体的に照明度が低くいることや、電力料金の値上げ等から校舎内外の照明器具のLED化を実施した。

(3) 千葉女子専門学校附属聖こども園

これからの日本及びグローバルな世界で力強く生き抜く力、社会に貢献できる人材の育成は、幼児期からの教育・保育が大切である。こどもたちの感性豊かな心と体を育み、社会の変化とニーズに呼応した人間形成をめざすことを目的として、昭和48年4月に千葉女子専門学校附属聖幼稚園を、平成24年4月には同ひじり保育園を開園した。その後、時代の要請を受け、平成27年4月には二つの園を統合し、千葉市内では最初の幼保連携型認定こども園として千葉女子専門学校附属聖こども園を開園した。就学前の幼児教育・保育の提供及び地域における子育て支援に寄与しながら今日に至っている。

【教育・保育目標】

幼保連携型認定こども園における教育及び保育の目的は、義務教育及びその後の教育の基礎を培うとともに、子どもの最善の利益を考慮しつつ、その生活を保障し、保護者と共に園児を心身ともに健やかに育成することにある。それらの目的の達成のため、本園では以下のとおり方針。目標等を掲げ日々実践に取り組んでいる。

- (1) 教育・保育方針 「かしこく、たくましく、心健やかな子」
- (2) 教育・保育目標：
 - ①学びの芽を育て、生涯学習の基礎を培う。
 - ②自己を発揮し、たくましい体と優しさを身につける。
 - ③互いの気持ちを伝え合い、情操豊かな心を育てる。
- (3) 個別目標 幼稚園 —
 - ①しなやかな心と体の発達を促す。
 - ②協調性を養う。
 - ③「集中力」と「達成感」を身につける。
 - ④「いのち」の大切さを知る。保育部 —
 - ①信頼感や思いやりの心を育てる。
 - ②基本的生活習慣の自立を養う。
 - ③運動機能の基礎を身に着け健康な体を作る。
 - ④遊びを通し、想像力/自主性/責任感などを育む。

【教育・保育の展開】

教育・保育要領に沿った、それぞれの領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）のねらいや内容、並びに年齢や発達段階に応じた指導計画等を組み立てながら日々の教育・保育活動に取り組んできた。

- (1) 乳幼児保育の指導体制
0歳から2歳までの保育は、年齢別にクラス編成を行っているが、集団との関わりをとおして社会性を育む観点等から、活動そのものは一緒に進めている。
- (2) 合同保育の指導計画
3歳から5歳までの園児に対する合同保育（9時～14時位）については、ばんだ組、いちご組、カンガルー教室からの持ち上がりの園児が多いため、1号・2号の分け隔てなくスムーズな園児活動が定着している。教室では、工作遊び、手遊び、音楽表現などの活動をとおして情操教育の充実を図っている。
- (3) 預かり保育等の充実
預かり保育は、朝7時～8時30分、夕方14時30分～18時00分の時間を有料（通常1時間当り1,900円、30分100円、時間帯により割引有り）で行っている。また、「バス待機預かり」を14：15から最後のバス出発まで無料で、2号・3号認定の子の預かり保育は18時を限度に、それ以降は、全園児を対象として20時まで「延長保育（有料1時間当り3歳未満3,000円、3歳以上1,900円）」を行っている。
- (4) 未就園児教室等の実施
2歳児の子どもだけを対象としたものや、親子を対象としたもので、これらは子育て

て支援等を目的として実施しているものであり、保護者や地域から園への理解を深めてもらう観点からも重要な位置づけになっている。

- ①カンガルー教室（親子1・2歳児クラス）実施日 月2回程度
- ②いちご組教室（2歳児クラス 親子分離、園児のみ）週2日
- ③未就園児親子教室（1・2歳児親子クラス）月1回年9回程度

【各種行事の取り組み】

子どもの成長・発達にとっては、行事は欠くことのできない保育活動の一つである。子どもの成長の節目をお祝いする行事（入園式・卒園式・誕生会）や、伝統的な行事（ひな祭り・七夕祭り・豆まき・餅つき）、子どもの日頃の成長、成果を発表する行事（運動会・お遊戯会・発表会・作品展）、体験や活動の幅を広げる行事（遠足・お泊り保育・芋ほり）、親子・保護者同士の交流を深める行事（保育参観・親子遠足）など、実施する行事の目的や意義を明確に捉えながら年間計画を立て実施している。しかしながら、今年もコロナの影響により中止や規模縮小といった状況となった。

3年間、幼稚舎と保育部が別日、別スタンスで行ってきたので、来年度はできるところから、双方から年間行事担当の専門リーダーを立て、各行事も行事ごとに担当を決めて共通理解を図り、日々の保育へと繋げていきたい。

【関係部署との連携強化】

- 保育部と幼稚舎との職員同士の共通理解を図りながら保育活動を進めることは運営上の重要な要である。朝の打合せ、職員会議、職員同士の声かけ等をとおして、コロナ禍での園児活動が円滑に進むように取り組んできた。
- 専門学校の学生及び聖心高校の「こども保育コース」の生徒に対する保育実習の受け入れを例年どおり行ってきた。子どもたちもお姉さん先生との交流を楽しみにしている。また、職員も新鮮な刺激や気づきがあり、保育の向上にもつながり、連携強化を図りながら相互の交流を図ることは意義深い。

【安全・安心な保育環境の整備】

- いつ、どのようなことが起きても適切な対応ができるように保育環境の安全点検に努めてきた。施設設備等に起因する大きな怪我や事故等の発生はなかったが、4年度もコロナの感染に伴う臨時休園や保育活動の一部中止等を余儀なくされ、特別保育を実施しながらの保育運営となった。こうしたウイルス感染対策を含めた安全・安心な保育環境づくりに引き続き取り組んでいく。
- 4年度は、「健康チェックアプリ LEBER」を起用した。各家庭（園児・家族の健康）のデータを通して各家庭との連携を図った。また、玄関及び各保育室前に設置された足踏み消毒液による手指の消毒や非接触型検温計による保護者・業者などの来園者の検温を行った。
- 4年度は遊びの場をコーナー化して、子どもたちが活動しやすいように環境を整えた。引き続き、室内あそび・戸外遊びの教材研究と整備を行う。